

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	連携体制による健康づくり（ウォーキング推進グループへの支援）事業							
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	医療健康課	係	健康係	評価票作成者	健康推進担当 矢野真由美
1-3 総合計画における施策の体系	①節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			③基本施策	成人・老人保健	コード	2-1-1
	②項	健康			④単位施策（中）	健康づくり事業を支援する環境づくり	コード	2-1-1-3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	健康づくりを市民レベルで推進しているボランティア団体	意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		ウォーキング推進グループと協働でワークショップを進めながら実際の活動へ結びつける事ができる			
	1-5 事務事業の内容	月1回のワークショップ（運営委員会）を開催。さらに17年度市民協働型で策定したウォーキングマップに沿って月1回の市民ウォーキングを健康課と協働で開催。						

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
		平成18年度	推進グループとの信頼関係を築き更に推進グループのメンバーシップやリーダーシップ力を高めるため健康課はコーディネーター的な役割を担っている。	推進グループの活動は始まったばかりであり、今後活動範囲を拡大できるよう働きかけていく。
平成19年度	推進グループが主体的に取り組めるように支援。	推進グループ活動の安定化をはかった。	参加者にアンケートを取り、運動の習慣化としてウォーキングが継続できるように企画した。参加できない人のニーズを把握していく必要がある。	
平成20年度	〃	事業運営の推進だけでなく、グループ員のやりがいにも通じていることが伺える。	自分がやりがいを感じる活動への参加を、自分の周りの人にもよびかけ、この活動の発展を求めている。	
平成21年度	推進グループが主体的に実施よう継続支援をした。	推進グループ員の高齢化を考慮し、負担増加にならないよう配慮を要する。	参加者の増加にともない、ウォーキングの安全性を強化したコース企画に重点をおいている。	
平成22年度	推進グループ員減少の中、新規推進グループ員募集をかけるが集まらず継続支援をするが現推進グループ員への負担増加がみられる。事業参加者が増加していることは、推進グループ員のやりがいにも通じている。			
平成23年度	月1回会合を持ち、事業に対して共有するようになった。また、新しい人が推進グループに加入することで、グループの活性化につながった。			
平成24年度	月1回のウォーキング事業について、保健センターの目指す方向性と推進グループメンバー思いを共有しながら、今後の取り組みについて協議した。メンバーの高齢化と引退というマンパワー不足という現実を受け止めつつ、できる範囲で継続する方法として、事業参加者からメンバーへの勧誘や新規メンバー募集を行うこととした。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	ウォーキング推進グループのワークショップ開催数			12(回)	36(回)	とよあけアクションプラン2-1の具体的な展開として結成されたウォーキング推進グループの、一般市民参加ウォーキングの開催のための、会議開催数 【資料】ウォーキング推進グループ活動報告				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a (単位)	180 (人)	130 (人)	134 (人)	144 (人)	104 (人)	134 (人)	131 (人)			
直接事業費 b (千円)	0	31	7	0	0	17	14				
人件費 c (千円)	389	214	173	173	168	162	154				
合計コスト d (b+c) (千円)	389	245	180	173	168	179	168				
単位コスト d/a (千円)	参加者当たり 2.2	参加者1人当たり 1.9	参加者1人当たり 1.3	参加者1人当たり 1.2	参加者1人当たり 1.6	参加者1人当たり 1.3	当たり 1.3	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 【活動実績】延べ参加人数 人 【直接事業費】ブルゾン・帽子 13、125円 【人件費】ワークショップの日で12回の開催 2時間×2人×3,200円×48時間=153,600円
 推進グループではマップコースをアレンジして、参加者が飽きないようなコース設定をしている。グループ員による下見ウォークに基づくコースの決定、当日のグループ員の役割の確保等、楽しく安全に実施できるよう会議を開催。

2-4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	指標対応実 績(回)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値 に対する達 成度(%)	12	12	12	12	12	12	12	12	
		33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3			

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価	A	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- ①必要性(必要な事務事業であるか)
 - ②公共性(公が実施する意味があるか)
 - ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	推進グループの組織力が高まりつつある中で、健康課としてはその役割を協働からグループの自立に向けて、支援へと移行できると予想される。	推進グループから出された意見やアイデアを具現化できるように、更に自立したグループへと働きかけていく。	組織が出来て1年足らずではあるが推進グループのリーダーシップやメンバーシップが高まり活動が継続している。また活動にはどのメンバーも意欲的に取組まれ市民協働事業として評価できるところである。	ウォーキングの企画・運営が主体的に実施されている。今後も継続できるようにグループ活動を安定できるよう支援していく。	ウォーキングを始めるきっかけとなるような企画が具体化でき、活動への手ごたえ楽しさが実感できるよう働きかける。
平成19年度						
平成20年度		〃		グループ員の増加が図れるような、働きかけへの支援。		推進グループのどのメンバーも意欲的に取組まれ協働事業として評価できる。継続していただけるよう支援した。
平成21年度	ウォーキング推進グループ活動が主体的に運営されている。継続支援。		ウォーキング推進グループ員の増加について、継続支援。			ウォーキング推進グループ員の増加を図るため、広報を通じてPR活動をする
平成22年度	市広報や事業実施時にPRを行ったが応募がなく、推進グループ員の増員が課題となっている。					
平成23年度	ウォーキング事業については、グループと保健センターの役割は明確になってきている。しかし、ウォーキング推進員の増加がなかなか図れず、メンバーには負担が増えている。					
平成24年度	メンバー自身がやりがいを感じながら継続参加できているため、さらにモチベーションを維持できるよう事業の効果等を形にして伝えていく。また、マンパワー不足を補うためにメンバーはもちろん他課・他団体との連携も視野に入れた支援を考える。					
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の 結果	結果		審査会による改善方向の指示	
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。		
平成20年度	A	継続して事業を進めること。		
平成21年度	A	継続して事業を進めること。		
平成22年度	A	継続して事業を進めること。		
平成23年度	A	継続して事業を進めること。		
平成24年度	A	継続して事業を進めること。		
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				